

平成30年度第3回みんなで支える森林づくり上伊那地域会議

開催日時 平成31年3月19日(火) 13:30~15:30

開催場所 伊那合同庁舎講堂

出席委員 唐澤 幸恵委員、木村 彩香委員、高山 美鈴委員、武田 孝志委員(座長)、
田中 章委員、辻井 俊恵委員、唐木 信彦委員(寺澤委員の代理)、
三井 清一委員、盛 尚貴委員

事務局 堀田地域振興局長、越原林務課長、小林林務係長、青木林産係長、福嶋普及係長、
倉本治山林道係長、松尾治山係長、宮脇鳥獣対策専門員、小田切主査、中田技師、
岡田担当係長、山内担当係長

会 議

- (1) 平成30年度長野県森林づくり県民税活用事業の上伊那地域における実績見込み
- (2) 平成31年度長野県森林づくり県民税について～事業の内容及び目標(案)～

<事務局説明>

会議事項(1)について、事務局から資料を説明した。

(武田座長)

それでは、ただ今の事務局からの説明に対し、ご意見やお気づきになった課題について、皆さんから発言をお願いしたいと思います。

(唐澤委員)

林業従事者に限らずに、地域の方の関わりが繋がってきていることを感じて、とてもうれしいというのが率直な感想です。

一方、松くい虫に加えて、竹林を整備しなければならないという新たな課題も出てきていると感じています。

(武田座長)

竹林に関連して、先ほど竹をチップにしているという事例がありましたが、チップをどのように活用しているのですか。

(堀田局長)

チップを肥料にして、米づくりに活かし、人気になってきています。

(木村委員)

私は森林に詳しいわけではないので、一般の県民としての意見ですが、傘山の町有林の整備や中川村の木の駅プロジェクト、また最後に紹介のあった週刊いなの記事など、生活していて森林税のキーワードが目につくようになったと感じます。先ほどの竹チップのお米も中川村や飯島町で販売されすぐに売り切れてしまうという話を聞いています。

私は森が好き、自然が好きというのもあってアンテナをそちらに張っているということがあるかもしれませんが、それでも森林セラピーの取組について今回はじめて知ったものもあり、興味

のある人に事前にどのように情報を届けるのかが課題だなと感じます。

また、20代、30代の同世代の人に、あれは森林税が活用されているんだよと日常の会話の中で話しても、森林税って何？いくら払っているの？そこから全く分からない人たちもいて、若い世代や県外からの移住者などに対するPRが必要だと感じました。

(武田座長)

アンテナの高い人たちにはある程度広がってきていると言えるかもしれませんが、20代、30代にどのようにPRしたらよさそうでしょうか。

(小林林務係長)

明確な答えはもっていません。しかし、単純に「山がきれいになってよかったね」で終わらせてはもったいないとっていて、活動の主体として参加してもらえることをしかけていく必要があると考えています。

(武田座長)

そういえば、伊那の森JOYは親子連れが多かったし、若い人たちも参加されていましたね。そのようなイベントの機会をどのように活かしていくか、というのはあるかもしれませんね。

(高山委員)

最初のことを思うと、物事を継続するということはすごく大きいことだなと思っています。森林税が継続されてよかったですねというのが今の率直な感想です。

私はそんな立派な意見が言えるわけではありませんが、「やまほいく」や木のおもちゃを保育園に提供するなど希望のある取組がされていて、子どもたちが小さなころから学ぶことや感じることでできて、すごくいい取組だなと思います。

伊那地域は環境に恵まれ、屋外で遊べる場所が整備されていて、休みの時に友達や親と遊びに行ける場所がありますが、天気の悪い時に遊べる場所が割と無いように思います。主な場所だけでも良いので、例えば市町村の図書館に子どもたちが駆け回って遊べるようなスペースを確保して、そこに木のおもちゃをいっぱい置いたら、雨の日や冬の寒い日でも遊べることができるし、例えばそこへ高齢者が行って子守りができたりすれば、老人の福祉にもなるし、子どもの教育にもいいし、そんなことができたらいいなと、ちょっと夢みたいなことですが思いました。

(武田座長)

それは、林務だけではなく、組織横断で取り組んでいかれるといいですね。特に子どもへの投資は将来につながるとは思いますがいかがでしょうか。

(小林林務係長)

おっしゃるとおり、林務サイドだけでできる取り組みではありません。どのような場所に木のおもちゃを置いたら効果的だろうかといったご意見をお聞かせいただけるとありがたいと思います。

(田中委員)

県、市町村、それから地域、団体と大変たくさんの方々に取り組んでいるなというのが率直な受け止めです。私の地区でも山作業というものがあり、年に4回ほど作業があるのですが、非常に急斜面で場所も遠いことから積極的な気持ちで参加したことがありません。このように里山整備や自分の地域の整備に参加されている方たちは、どのような思いで取り組んでいるのか、やらなければならないからやっているのか、お気持ちを知りたいと思います。

また、森林税の当初の目的に対して、どの程度進んできたのか教えてください。

(小林林務係長)

まず一点目について、里山整備利用地域の認定を受けモデル的に取り組まれている地域というのは、今回急にはじまったということではありません。これまでの素地があって、リーダーになるような方がいらっしゃることで、また、山の整備を進めたいということに加えてそれぞれに動機があり、例えば、大きな災害を経験し行政に任せきりではなく自分たちでできることがあるのではないかと取り組んでいる地域、あるいは、子どもの頃山で遊んだ記憶がよい思い出として残っていて、今の子どもたちが全く遊べていない現状をみて遊び場としての山を取り戻すための活動を行っている地域、また、多いのは薪の活用です。薪ストーブユーザーは増えていて、新しく入居された方などは自分の山を持っているわけではない、せっかく間伐材があるのだから薪として活用できないだろうかというところから活動がスタートしている地域もあります。単純に間伐だけを目標にするのではなく、自分たちでやったことがちゃんと実感として得られている人たちが、ずっとつながる活動をされているのではないかと思います。

二点目につきましては、森林税は森林が社会共通の財産であることから、みんなで森林づくりを支える仕組みとしてスタートし、5年ごとに見直しをかけています。5年ごとにそれぞれ目標を持ちながら整備を進めてきていて、100%に達していませんが、概ね間伐などの整備が進んでいるという状況です。今回、30年度から5年間森林税が延長となり、事業が多岐にわたるわけですが、基本方針を策定し、それぞれに目標を定めて事業を推進していくこととしています。

(田中委員)

それから、伊那市生涯学習センター「いなっせ」に子どもが遊べるスペースがあるので、木のおもちゃをいっぱい置いてもらえればうれしいと思っています。

(辻井委員)

私も以前より委員をやらせていただいています、まずは集約化しなければ森林整備が進まないというところからはじまっていたのですが、今では利活用や周知などへ森林税の事業が進展してきている現状をお伺いし、素敵なことだな、継続は大事だなと思っています。先ほどのスライドを拝見しながら、この事業も森林税を利用した事業だったのか、細かいところまで利用されるようになり凄いなと思いつつも、たまたま息子が南箕輪南部小学校へ通っているので学校林の整備を行っているのは知っていたのですが、これが森林税を活用したものだということを今初めて知りました。例えば学校からのお便りとともに森林税のパンフレットを合わせて配れば全校の親御さんに情報が伝わりますので、せっかくなのでもう一步踏み込んだ取り組みを期待します。

(唐木委員)

上伊那森林組合も、森林税を活用した取組に関わらせていただいています。特に道路沿いの支障木の伐採については、個人や地域などから何とかならないかということで大変多くのお問い合わせをいただいているところです。組合としても工夫しながら森林税を活用していければよりよい環境づくりに貢献できると考えています。

一方、情報が十分に届かないということもあると思いますので、組合としても発信していくことが重要だと考えています。

(三井委員)

森林税が3期目に入り、メニューが多様化されたことを受け、町としても活用したいことが多々あります。また、来年度から国の方でも森林環境譲与税という取組も付加していくこととなります。町民、県民の皆さん、まだまだ森林税の内容までご存じない方もいらっしゃいます。当町でも、緑の少年団活動などに取り組んでいる学校では取組が浸透していますが、全ての学校でそのような教育の場があるわけではありません。小さいころからの体験が大人になっても残ると思いますので、その辺りに力を入れられればいいのかと思います。

(武田座長)

信州大学農学部の4年生に伊那西小学校の出身者がいて、学校林の思い出が今につながっていると聞いています。

(盛委員)

先日、里山整備利用地域リーダー育成事業の中で、やまほいくフィールド講習会というものが高遠第2・第3保育園の裏山で行われました。そこで、私は林業従事関係者、また保護者の立場で参加させていただきましたが、林業総合センターの講師の方が、とても楽しくて魅力的に専門的なお話をしてくれ、普段山に入らない私たちが、森林への関心がとても高まった講習会になりました。こうした取組を毎年行っていれば、地道に地元の人たちが裏山に入ったり、もっとも山との活用というのを身近に感じられるようになるのではないかと思います。

また、前回の意見から早速この焼き印が形になっていて、デザインも優しいのでとてもいいなと思いました。

子どもの居場所づくりで大型の積み木が高遠第2・第3保育園に入っていますが、すごく柔らかくて軽くてとてもいい積み木でした。せっかくの焼き印ですのでどのように活用するのか教えてください。

(小林林務係長)

そうした完成した製品にも押せるような焼き印ですので、できるだけ多くの皆様に活用いただければと考えています。

(盛委員)

例えば保育園に来た大きい木の積み木に山のハンコが押してあって、木のマークがあるというだけでもずっと心に残り、子どもの心にふるさとの気持ちがはぐくまれて、大きくなって一度都会に出たとしても、長野県に戻りたいな高遠に戻りたいなという気持ちにつながるのではないかと思います。積み木ばかりでなく机の天版に押してあったらいいなと思いますので、活用を進めていただきたいと思います。

(小林林務係長)

ありがとうございました。この焼き印もできたばかりですので、今後、機会をとらえて活用を進めていきたいと思っています。

(武田座長)

先日木材学会の中で、たまたま木製遊具を扱っている会社の方にお話しをお聞きしましたが、今一番忙しいのは木でつくる丸いボールだそうです。プラスチックでは故郷を感じる事ができませんから、やはり木の活用は大事だなと今のお話を聞いて思いました。

<事務局説明>

会議事項(2)について、事務局から資料を説明した。

(武田座長)

事務局から、平成31年度 of 取組について説明いただきました。かつては、この時点で来年度の具体的な内容について示していたと思いますが、何か変わったということでしょうか。

(小林林務係長)

昨年度の第2期までは、森林づくり推進支援金という市町村がそれぞれの課題解決に向けて活用している事業がありますが、来年度の計画についてお示しして委員からご意見をお聞きするということをしておりましたが、第3期からは市町村がそれぞれ説明責任を果たしていただくことに重きを置くようになりまして、計画段階でご意見を聞くことはなくなりました。

(武田座長)

林務部だけで完結するのではなくて、他の部局と協力してやっていくというのが見えて、そこが第3期の一つの大きな特徴かなと思います。

それでは、順番にご意見をお願いしたいと思います。

(唐澤委員)

こうした取組によって木材の利用が広がっていくというのはとてもうれしいことだと思いますが、一方、山の整備に携わっている人が増えない中で対象の面積が広がっていくのは厳しいなと思います。そこで地域の方たちが整備に関わっていくとすると、専門家でも事故を起こしているような状況がある中で、やはり危険が伴いますので、安全な伐採の仕方や防具を整えるという

ことなどちゃんとしていかなければならないのではないかと思います。

(越原林務課長)

ありがとうございました。おっしゃるとおり、林業のプロの方は年々減少しているのが現状です。第3期森林税では、地域の方に関わっていただきたいということもありますので、危険を伴う作業はプロに任せ、そうでないものは地域が関わる、でも安全は欠かせないのでそのための講習会はぜひ進めていきたいと思います。いずれにしましても、地域の協力なくしては森林整備が進まないと思っておりますので、よろしくお願いします。

(木村委員)

先日知人が、国の林業の研修があるということで20日間千葉に行ってきたのですが、とても楽しかったとの感想でした。木を伐る職業について、どのようなところに就職できて、どのように暮らしていけるのか、そうして仕事につながるということを小さいころから伝わるといいなと思いました。

また、県外から転入してきた時に、ゴミ出しの案内や防災のパンフレットはいただけるのですが、森林税のパンフレットを一緒にお渡しして、あなたの払っている500円をこのように活用していますよということを知る機会になるのではないかと思います。

先ほどの子どもたちの遊ぶスペースに木のおもちゃをという話について、先日たまたま大鹿村の道の駅に寄ったら木のおもちゃや車があって、外は吹雪でしたが子どもたちが中で遊んでいるのを見ました。飯島町でもやはりお父さんお母さんから雨の日に遊ぶ場所がないという話は聞いています。例えば道の駅にそのようなスペースができれば県内の人にはもちろんですが、県外の人にもそうした長野県の取組のPRになるのではないかと思います。

(越原林務課長)

3つとも重たい課題だと受け止めました。研修は県でもやっているのですが、興味のある人にしか伝わらないというのは課題だと思います。小さいころからという話もありますが、例えば高校などに研修の案内を出すなどの取組を進めていきたいと思います。

県外からの転入者の件については、私も先日前お話しの方が森林税のことを知らなくて、やはり十分に浸透していないなと感じていますので、ご意見を参考に考えていきたいと思います。

道の駅は確かにいいと思います。今お聞きして、座長からお話のありました木の丸い球を様々な樹種でつくって木の名前も覚えられたら楽しいかなと思いましたので、木がいろいろなところで活用されるように様々なところと連携しながら考えていきたいと思います。

(武田座長)

林業は産業というよりも環境面から取り上げられることが多くなり、森林県から林業県へということで、産業として頑張っていかなければいけない状況です。

一つ紹介したいのは、長野県には林業大学校があって、2年間全寮制で森林・林業について学んでいて、結構人気があります。はじめは長野県にしかなかった林業大学校は今では全国に22校も設置されている状況です。

(唐澤委員)

信州大学の状況はどうか。

(武田委員)

信州大学農学部の森林系の学科は、かつては3つ学科がありましたが今は一つにまとめられて、その代わり4つのコースができました。森林環境共生学コースとして、1学年40人くらいが学んでいます。今年度卒業する学生が新しいコースになって初めての卒業生です。

(唐澤委員)

林業従事者として就職される方はどのくらいいるのですか。

(武田委員)

就職先はいろいろあって、公務員、森林組合、住宅関係、コンサルティング・調査関係などですが、自然と向き合いたい人が多いというのが印象です。

(高山委員)

森林税は他県でも取り組まれていると聞いていますが、周知はどのようにされていますか。

(小林林務係長)

他県でも取組の周知は苦勞されているとお聞きしています。長野県は、他県と比較すると認知度が高いという状況です。

(高山委員)

このようなことを周知するのはなかなか難しいことだと思いますが、一歩ずつ、一年ごとに、理解していただいている人が増えていると思っていますので、工夫して取り組んでいただきたいと思います。

それから、支障木の伐採について、個人有林であってもどんどん伐っていけるものなのですか。

(越原林務課長)

やはり所有者がいますので、同意を得ながら進めています。

(田中委員)

森林税の目的を達成するためにどのような手段をとらなければいけないかを考える必要があると思っています。一つは経済としての出口を考えなければ進まないのではないかと思います。かつて日本は林業が盛んな時期があって木材も使っていたけれども外材が入ってくるようになって衰退して林業従事者も減少している。そこで、経済という観点をもっと強く出して、森林税をどう活用していくかを考えた方がいいのではないかと思います。

そのためには森林で食べていけるプロがいないとだめだと思います。いくら里山整備を地域でといっても限界があると思います。プロに指導してもらってそれで地域もできる、そういうこと

につながっていかねばならないと思いますので、人材をどうするのかというのは経済と一緒に検討すべきことだと思います。

人材については、縦割りではなく横断的に、例えば福祉的な観点も絡めて研究していったらどうかと思います。

経済については、一つは地域循環型エネルギー、また、木材を器として活用するなど様々な素材として使っていく必要があるのではと思います。先日、浅草で全国の名産品が集められた市を見てきたのですが、松本からたくさんの木製品が出品されていて驚きました。そうした経済に結び付くことに取り組んでいかねばならないのではないかと思います。

先ほど、薪の話がありましたが、松茸山の取組の状況はどうでしょうか。また、伊那市の上牧ではピザ窯を造っているとお聞きしましたが、そうした地域での楽しみも増えていけばいいなと思いました。

(武田座長)

経済的な観点で、一つ紹介しておきます。林業総合センターで開発した接着重ね梁という製品が、先日、木材学会で技術賞を受賞しました。できるだけ広く使っていただけるようにしていきたいと思います。

(辻井委員)

これまでも建築士会で建築に関する子供たちへのキャリア教育のボランティアをしてきておりますが、来年度は森林税を活用し事業を行いたいと考えています。南箕輪小学校3年生がピザ窯をつくり、それを保護する小屋が欲しいという話がありました。そこで森林税を活用し、児童が小屋を造りながら建築について学べる授業をしたいと思っています。ただ小屋をつくって終わりではなくひとつひとつ知識と体験として学べるよう、本年度は小屋制作の準備学習として、建築とは、木とはどういうものなのかについて、3回の授業を受け持って学習を進めています。クラスの児童全員が描いた小屋の絵から、みんなで一つに絞りまして、これは実物の15分の1の木造の構造模型ですが、建築図面を見ながら4時間かけて一人一つずつ作り、木造建築の仕組みを学習しました。

また、先日はサワラの板を一人一人に配布して、小屋の中にかざる彫刻をするということで、樹種の話、木表木裏の話など木についての授業も行ってきました。

来年度は、山に行き木の生えている状況を見ながら森林整備を体験し、次は、製材工場に行って製材の過程を見学しどのように木材になっていくのかを学び、さらに加工の過程で木組みの仕組みを学び、最後に基礎工事から工程ごとに児童と組み上げていければと考えています。

その際は、報道の方々にも取り上げていただきながら、しっかりPRしていきたいと思います。

(唐木委員)

来年度の事業について、新規あるいは拡充されたものがあり、危険木の関係、住宅や道路際などで困っている方が多いと先ほども触れさせていただきましたが、ライフラインということでメニューが位置づけられましたので、森林組合としても、制度の趣旨に沿った形で貢献できればと思っていますので、よろしくお願いします。

(三井委員)

重複しますが、昨年の台風で倒木があって、人海戦術で対応するという機会が多くありました。目に見えて危険なところというのが数多く当町にもありますので、早めに対応できるように、今後も予算が十分確保されるよう期待しています。

(武田座長)

台風の被害を予想するというのは難しいと思いますけれども、ここは危険だとおおよそ予見できるものなのですか。

(青木林産係長)

来年度の事業は、台風で倒れたから実施するという緊急伐採的なものではなく、例えば、小学校の通学路に倒れそうな大木があるというときに、これまでは森林整備の一環として取り組むことが求められていましたが、今回は公的なものを守るために市町村が事業主体となって、事前に調査を実施したうえで、個別に伐採に対応できるようになりました。かなり要望もあろうかと思っておりますので、危険性の高いところから優先的に実施していくということになると思います。

(盛委員)

私の家の地区も里山なので、裏山の入り口にちょっと木の階段をつくりたいとか、花壇に使う杭をつくりたいとか、子どもと一緒にやりたいと思うのですが、私や周りのお母さんたちはそのようなちょっとした簡単そうなことが道具の使い方がわからなくてできないでいます。さきほどの林業のプロが減っているという話につながるとは思いますが、超初心者の人たちに、例えばナタ・ノコの講習をしてもらおうとか、私も一歩進んでチェーンソーを使ってみたいのですが、なかなか教えてもらえる機会がありません。時間がかかるとは思いますが、そうした講習があれば、少しずつでも技術の底上げが期待できるのではないかと考えています。以前、フィールド講習会の前に、林務課の女性職員の方が保育園の裏山に来てくれたときに、とってもみやましい恰好をして、ナタとノコギリを使って枝を払っているのを見てすごくうらやましいなど、あこがれた気持ちがあります。私は主人に教えてもらえる環境はありますが、普通の家庭ではなかなか難しいと思います。でも、里山に住んでいるので、家にナタやノコギリくらいはあります。そうした道具を安全に使う技術の講習会を開いていただけたらいいと思います。女性限定でなくてもいいと思いますが、林業総合センターまで足を運ばなくても、林業のプロから教えてもらえる機会があればいいなと感じました。

(越原林務課長)

大変貴重な意見をありがとうございました。ご意見を活かしていきたいと思っております。

(武田座長)

お母さん方のネットワークを活用できれば格段に認知度も高まるのではないのでしょうか。その他、言い忘れていたことなどありますか。

(高山委員)

先日のテレビで見たのですが、甲府市の図書館の特徴的な取組が紹介されていて、ワインに特色を持たせて、本ばかりでなく試飲までできるというのがありました。木のおもちゃを置くスペースがもしできたら、そこに林業や木の関係の本や動画などあらゆる情報が集められれば、長野県らしさが出せるのではないのでしょうか。

<その他>

唐澤委員から5月11・12日伊那市で開催される第35回全国削ろう会信州伊那大会についてお知らせいただいた。